

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 31 日現在

機関番号：33912

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370815

研究課題名(和文) 海外に残存する戦国大名関係史料の総合的研究

研究課題名(英文) Historiographical materials of warlords that are still extant in foreign countries

研究代表者

鹿毛 敏夫 (Kage, Toshio)

名古屋学院大学・国際文化学部・教授

研究者番号：60413853

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：ドイツやポルトガルには、16世紀日本の戦国大名大友宗麟や大内義隆を描いた絵画史料が残されている。また、インドのゴアには、同時期の日本の戦国大名に関わる絵画史料や文献史料が架蔵されている。さらに、中国の博物館には、これも同時期の日本の大名が派遣した渡航船に関連する遺物が保管されている。

本研究は、海外に残されているためにこれまで分析されることのなかった日本の戦国大名関連の歴史史料等を国際的に調査・分析し、16世紀日本社会をアジアやヨーロッパの世界史的観点から総合的に考察・評価した。

研究成果の概要(英文)： In Germany and Portugal, there are paintings depicting the Sengoku Daimyo of the 16th century Japan. Also, in Goa, India, there are some literature historical documents related to the Japanese Sengoku Daimyo. In addition, relics related to ship dispatched by Japanese daimyo are kept in Chinese museum.

These historical materials have never been analyzed so far, because they are left overseas.

In this research, we surveyed and analyzed the historical documents related to the Sengoku Daimyo of the 16th century Japan internationally. Furthermore, we comprehensively considered the 16th century Japanese society from the world historical point of view.

研究分野：日本中世史

キーワード：戦国大名 海外史料 国際情報交換 多国籍

1. 研究開始当初の背景

ドイツ南部ポンマースフェルデンのヴァイセンシュタイン城、およびポルトガル・リスボンのサン・ロケ教会博物館、コインブラの新カテドラルに、日本の16世紀の戦国大名大友宗麟や大内義隆を描いた絵画史料が残されている。また、インド西部のゴア州立歴史文書館には、同時期の日本の戦国大名に関わる絵図史料や文献史料が架蔵されている。さらに、中国浙江省の舟山博物館には、これも同時期の日本の大名が派遣した渡航船に関連する遺物が保管されている。

本研究では、海外に残されているためにこれまで有効に分析されることのなかった日本の戦国大名の絵画史料等を国際的に調査・分析し、16世紀日本社会をアジアやヨーロッパの世界史的観点から総合的に考察・評価することをめざした。

2. 研究の目的

15～16世紀日本の戦国大名領国の研究は、従来の文献史学が描く歴史像に考古学の発掘成果が加わり、また海外からの視点も加味されることで、近年急速に進歩し、分析方法も多様化してきた。

一例をあげると、九州豊後(大分県)の戦国大名である大友氏に関わる歴史的研究では、13世紀から16世紀までの中世の約400年間にわたり豊後府内(大分市)を本拠とした同氏の大名館跡のみならず、大名蔵や菩提寺の跡、それに周辺に5000軒あったと記録されている町屋跡等の総合的発掘調査が20年あまりにわたって継続されており、14～16世紀の国内産陶器や土師器、輸入陶磁器などが続々と出土している。なかでも特筆されるのは、中国や朝鮮半島、琉球、東南アジア諸国からもたらされた陶磁器類の出土量の多さと多様さである。九州は、地理的に日本列島の端に位置する小島であるが、国境のない中世の時代においては、日本列島の国家秩序に位置づけられるとともに、中華(中国)を中心とする環シナ海域世界の国際秩序の一角を占めていた。文献史料には、15・16世紀の大友氏歴代当主が、室町幕府の遣明船貿易に荷担すると同時に、自らも大型の構造船(1500石積み)を建造してシナ海域の諸国と交易をしていた事実が書き記されている。

環シナ海域世界での日本の戦国大名の活動は、やがて16世紀半ばに同海域に進出した西欧諸国の活動と結びつく。フランシスコ・ザビエルをはじめとするイエズス会宣教師の世界布教活動等を通じて、日本の戦国大名はポルトガルとそのアジア進出の拠点であるインドのゴア存在を知り、その国王や総督らと交流し、使節を通じた書簡や贈答物等の交換を行った。豊後府内の発掘現場からは、キリスト教徒が使用したメダイやコンタ(ロザリオの珠)等のキリスト教関連遺物が多数出土し、大名館に隣接する敷地からは複

数のキリシタン墓を付属する教会遺構も見つかっている。

国内の文献・考古史料の分析が充実するなかで、いまだ手つかずの状態なのが、戦国大名が交流をもった海外の諸国に残される史料の分析である。西欧の大航海時代に象徴されるように、人間の活動が世界的規模に拡大し始める16世紀の時期、日本の戦国大名に関連する各種の史料は、近隣の中国・朝鮮半島等の東アジア地域のみならず、南アジアのインド、そしてポルトガル等のヨーロッパ地域にも残存するようになる。

こうした状況を念頭に、本研究では、日本国内のみならず、海外に残される16世紀日本の戦国大名関連史料に焦点をあて、所在国との国際的な協力体制のもとで、それらの史料を総合的に調査・分析し、同時期の日本社会の動きを世界史的視点から評価していくことを目標にかかげる。

3. 研究の方法

本研究では、近年の歴史研究環境の多様化に対応して、以下の各手段と方法を総合して16世紀戦国大名関連史料を調査・分析した。

(1) 絵画史料の調査・分析による歴史考察

主に、ポルトガル・リスボンのサン・ロケ教会博物館、コインブラの新カテドラル、およびドイツ・ポンマースフェルデンのヴァイセンシュタイン城に所蔵される絵画史料群の分析から、西欧諸国のアジア認識を考察した。

(2) 絵図・文献史料の調査・分析による歴史考察

特に、日本国内の文献史料の調査・分析に重点をおき、諸史料の連関構造の析出を行った。

(3) 考古・遺物史料の調査・分析による歴史考察

日本国内の考古・遺物史料の考察に並行して、中国や東南アジアに残存する遺物史料や遺構についての情報収集を行った。

(4) 多様な手段と方法の総合

上記(1)～(3)の各考察結果を総合し、多分野からなる史料群の相互の関係性を特に重視しながら、国際的観点から当該期の歴史を包括的に検討した。

また、近年のグローバル・ヒストリー研究の対象はおもに二次的文献史料であったが、本研究では可能な限り上質な一次史料に基づいて分析を進めることに留意した。さらに、本研究のような国際協力による研究の推進にあたっては、近年の不安定な政治・外交関係による研究協力の途絶の事態も想定されるため、共同研究の推進には細心の注意と配慮が必要であった。

4. 研究成果

本研究は、海外に残されているためにこれまで分析されることのなかった日本の戦国大名とその時代に関わる諸史料を、国際的な

協力体制で調査・分析し、16世紀日本社会をアジアやヨーロッパの世界史的観点から総合的に考察・評価することをめざした。

まず、初年度は、研究の到達目標を具体化させることに力点を置き、日本国内の個別関連史料の詳細調査から取りかかった。特に、神奈川、愛知、和歌山、広島、福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島等の各地に出向き、関連する戦国期の文献・考古史料の調査およびデータ蒐集を実施した。また、本研究の目的や計画・方法を国際的に幅広く認知してもらい、研究体制ネットワークを強化する目的で、中国マカオで開催された ICAS (International Convention of Asia Scholars) の国際会議にエントリーして発表し、今後4年間の研究目標等をアピールした。

2年目においては、調査実施対象地域を、国外はイタリア、国内では福岡、鹿児島、愛知、愛媛、広島、東京、三重の各地域に絞り込み、関連史料の調査・蒐集活動を実施した。ここまでの途中成果として、論文「戦国大名と海・船・交易」(『東アジア海域に漕ぎだす6海がはぐくむ日本文化』東京大学出版会)、学会口頭発表「文献・考古融合研究による中世商人像の顕然化」(第112回史学会大会日本中世史部会)その他を公開した。また、2015年4月から開催の九州国立博物館開館10周年記念特別展「戦国大名 九州の群雄とアジアの波濤」は、本研究と同じく西国の戦国大名の特にアジアに目を向けた諸活動と交流に着目した企画であり、同展図録の編集にも参画した。

3年目は、9月にインドネシアにおける現地史料調査を実施し、国内においては広島、瀬戸内、福岡での史料調査を行った。調査成果は、2015年4～5月に開催された九州国立博物館特別展「戦国大名 九州の群雄とアジアの波濤」の図録寄稿論文や、2016年2月開催の大内氏歴史文化研究会での研究報告「西国大名領国のアジア性」などで発表し、さらに一般向けには『アジアのなかの戦国大名 西国の群雄と経営戦略』(吉川弘文館)という図書にまとめて公開した。また、これまで3年間の調査において、特に、宗教性を帯びた絵画史料の調査・分析が、従来の歴史学では研究対象として敬遠されがちで積極的に分析されてこなかった状況も判明した。

そして最終年度には、これまでの活動で得た成果を集約しまとめる作業を行うとともに、補助的な現地調査を実施した。本研究活動の総合的成果の一部をまとめる書籍の編集を進め、『描かれたザビエルと戦国日本 西欧画家のアジア認識』(勉誠出版)とのタイトルの図録兼論文集を編者として2017年1月に刊行することができた。同書には、ポルトガル、サン・ロケ教会所蔵「ザビエルの生涯」連作油彩画全20点を、所蔵元の協力を得てフルカラーで公開するとともに、日本情報を含む各場面について詳細な解

説を施し、ポルトガルで出版されている画像解説文の誤解を指摘し修正を行うこともできた。また、この成果出版物におけるポルトガル史料の公開に際しては、リスボンのポルトガル日本大使館より多大なる援助と協力を得ることができた。

国内においては、「日本中世史の世界史的研究」と題する口頭報告を、2017年3月に名古屋学院大学で開かれた合同研究会で実施することもできた。

一方、4年間の研究においては、上記の成果に加えて課題も少なからず残された。

まず、文字史料分野での成果に比して、絵画や版画等の手法を通して諸外国へと伝達された日本情報の蒐集・分析がまだ不十分だった点である。例えば、16世紀後半にヨーロッパに贈られた安土城とその城下の屏風や、「豊後の王」が建設した都市を描いた板には、織田信長の安土城や大友義鎮の豊後府内(もしくは臼杵)の城や館、都市構造等に関わる多くのデータが含まれていたと推測される。また、同じく板に描かれた日本の動物や男性・女性の姿、衣服の絵にも、文献史料では伝えきれない歴史的な視覚データが盛り込まれていたはずである。海外に現存するはずのそうした絵画や版画、彫刻等の史料を幅広く調査・蒐集することで、これまで国内外文献史料のみでは描くことのできなかった学際的歴史像が浮かび上がってくるものと期待される。

また、海外に残存するはずの史料が必ずしも想定した個人や機関に所蔵されているわけではなく、悉皆調査を行っても確認できないケースも少なくなかった。こうした史料群に関しては、今後も可能な限り継続的な確認調査を実施して、その所在と現状の把握に努めていきたい。

16世紀における情報の東西交流は、極めて曖昧なもので、異国情報は誤解や誤報、誇張等を伴って相互に交わされたものが少なくない。また、前述したように、周辺情報からその存在が認められる日本関係史料について、現地において確認することができなかったものが複数あった。そうした意味で、諸外国に眠っている過去の日本情報については、いまだ有効な調査・研究手段が確立されているとは言えず、今後も幅広い調査・蒐集を行っていくとともに、調査手法の経験的確立に努めていく必要性を痛感する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計11件)

鹿毛 敏夫、16世紀日本とアジアのつながり 戦国大名と豪商のアジア進出、地歴最新資料、査読無、19号、2017、pp.3

7

鹿毛 敏夫、鉄砲 アジア交易網が起こ

した軍事革命、文藝春秋 SPECIAL、査読無、35号、2016、pp.172-179

鹿毛 敏夫、大友宗麟の国際性、戦国大名九州の群雄とアジアの波濤、査読無、2015、pp.38-41

鹿毛 敏夫、最末期の遣明船、日明関係史研究入門 アジアのなかの遣明船、査読無、2015、pp.105-110

鹿毛 敏夫、戦国時代にアジアを見据え、カンボジア国王と外交関係まで樹立した大友氏の先見の明、SAPIO、査読無、569号、2015、pp.30

鹿毛 敏夫、「おんせん県」とサルファー(硫黄)ラッシュ、本郷、査読無、119号、2015、pp.17-19

鹿毛 敏夫、戦国大名と海・船・交易、東アジア海域に漕ぎだす、査読無、6巻、2014、pp.89-95

鹿毛 敏夫、大内・大友氏の「弘治」遣明船、描かれた倭寇、査読無、2014、pp.81-82

鹿毛 敏夫、遣明船と相良・大内・大友氏、日本史研究、査読有、610号、2013、pp.3-27

鹿毛 敏夫、16世紀九州における豪商の成長と貿易商人化、大内と大友、査読無、2013、pp.141-178

鹿毛 敏夫、ドイツ・ポルトガルに現存する戦国大名絵画史料、南蛮・紅毛・唐人、査読無、2013、pp.203-228

〔学会発表〕(計6件)

鹿毛 敏夫、日本中世史の世界史的研究、名古屋学院大学第48回教員合同研究会、2017.3.8、名古屋学院大学(愛知県・名古屋市)

鹿毛 敏夫、西国大名領国のアジア性、大内氏歴史文化研究会、2016.2.20、山口市大殿地域交流センター(山口県・山口市)

鹿毛 敏夫、日明貿易と硫黄、中世史研究会例会、2016.1.22、ウイנקあいち(愛知県・名古屋市)

鹿毛 敏夫、描かれたザビエル、名古屋学院大学国際文化フォーラム、2015.7.11、名古屋学院大学(愛知県・名古屋市)

鹿毛 敏夫、文献・考古融合研究による中世商人像の顕然化、史学会大会、2014.11.9、東京大学(東京都・文京区)
KAGE Toshio, Nakaya Soetsu: a Trading Merchant in the Warring States Period in Bungo, Japan, 8th International Convention of Asia Scholars, 2013.7.24-2013.7.27, Macao, China

〔図書〕(計3件)

鹿毛 敏夫 他、勉誠出版、描かれたザビエルと戦国日本 西欧画家のアジア認識、2017、160頁(pp.2-3, 8-50, 101-116, 133-158)

鹿毛 敏夫、吉川弘文館、アジアのなかの戦国大名 西国の群雄と経営戦略、2015、200頁

鹿毛 敏夫 他、勉誠出版、大内と大友 中世西日本の二大大名、2013、552頁(pp.1-22, 141-178, 545-547)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鹿毛 敏夫 (KAGE, Toshio)

名古屋学院大学・国際文化学部・教授

研究者番号: 60413853